

第46回広報・見える化部会 会議録	
日 時	令和2年11月18日（水）10時00分～11時00分
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室さくら14
出 席 者	奥井委員、国吉委員、高田委員、高橋委員、村松委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 市民推進会議広報誌第38号原稿案について 2 市民推進会議広報誌第39号記事内容について
議 事	<p>（事務局） ただ今から、市民推進会議第46回の広報見える化部会を開催いたします。</p> <p>まず、本日の会議について報告します。本会議は、要綱の第5条第2項により半数以上の出席ということで成立条件になりますが、本日、出席されている委員の方は、ウェブ参加を含め6名ということで会議が成立することを報告させていただきます。</p> <p>また、本会議ですが、第8条により、公開となっており、会議室内に傍聴席、記者席を設けております。また、本日のこの会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は委員の皆さまに事前にご確認をいただきたいと思います。なお、会議録には個々の発言者の氏名を記載することとしておりますのでご了承くださいと思います。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌へも掲載させていただくことも併せてご了承願います。</p> <p>事務局からは以上になります。それでは、今後の進行につきましては高田部会長にお願いします。高田部会長、よろしくお願いたします。</p> <p>（高田部会長） 皆さま、お久しぶりでございます。やはり顔を合わせてお話しできるということはいいですね。その間に取材に行っていた、国吉委員と奥井委員もありがとうございます。</p> <p>報告書についていろいろと皆さんで検討するなかで、横浜の緑がどうなっているのか全体像がようやく見えてきた気もしました。そこを踏まえて、これからもまた、新たに私たちがやれるところを一生懸命やっていきたいと思っておりますので、皆さん、よろしくお願いたします。</p> <p>（一同） お願いします。</p> <p>（高田部会長） それでは、市民推進会議の広報誌38号の原稿について事務局説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">（事務局説明）</p>

(高田部会長) ありがとうございます。

では、委員の皆さまからのご意見、ご質問などがございましたら、よろしく願いいたします。

奥井委員と国吉委員、行っていただいたご感想、様子の説明でこういうところがポイントですとかありましたら、教えていただければと思います。

(国吉委員) このボランティアに関しては、もう20年のお付き合いで、そもそも私が立ち上げたというのがあるので、思い入れもありますし、それから、こんなに長く続けるとは思わなかったと言ったら語弊がありますがけれども、私の思い以上に皆さんのほうがすごく熱心に続けてくださっているボランティアのグループでもあります。

表紙の3人は、私もよく知る3人ですが、緑のムードメーカーの3人です。この活動は、施設内の花壇の手入れということでやっていますが、長く続けられた秘訣というのは、実は男性と女性が最初は半々だったんですね。そこからスタートして、男性の方が力仕事、女性の方が休憩のときにお茶を出したり、あと、行事も知らない間にいくつか増えていまして、お花見があったり、暑気払いがあったり、年末の会があったり、もうちょっと皆さんが元気でいらっしゃったときにはカラオケに行ったりされていました。

大人になってから近所でお友達をつくるというのは非常に難しいと思いますが、皆さん、それができたということが一つ、大きな宝だったみたいです。ですので、女性同士も、こうやって集まる機会はなかなかないなかで、まさに、この方たちがおっしゃっていましたが、家に帰ると色々あって大変だけれども、ここに来ると、お花のことだと何も考えずに打ち込めて、気分転換になると。それから、場所が坂の上にあります、とにかくあの坂を一生懸命歩いてという形で、夏の日も、冬の日も通って、月に2回の活動を続けていらっしゃるので、皆さん、身体的な健康維持にもなっているみたいです。

あと、ボランティアで、この中ではでてこないですけども、ご高齢の独居の方たちの家の除草と剪定作業というのを1時間だけ決めてやっていて、それも続いています。これは私からではなくて、先生、ボランティアをやっているから、ボランティアっぽいことをしたいということで、皆さんの発言の中から生まれた活動なので、それもちょっと入ると良かったかな、という気はします。ただ、そういうお話が出なかったのかもしれないですね。

(事務局) 独居の方の家の剪定は、最近ちょっとやれていないけれど、やってはいますというようなことをおっしゃっていたと思います。

(国吉委員) 皆さんがお年を召して同じような世代になってしまっているところはあると思います。皆さんが60代の、団塊の世代向けの講座で始まったので、それから20年、本当に80歳になり、最近、やはり亡くなる方もちらほらとあったりするので、少しできていないのかもしれないですね。でも、そういった経緯もありながら続いているグループです。

この3人の方はムードメーカーで、男性の方たちにお茶でもてなしをしたり、お弁当を作ったりという、とても元気のいい方3人ですね。

少し気になったのは、時期的にもしょうがなかったですけども、写真は、春の写真とか、差し支えなければ、私も持っているもので入れ替えましょうか。なんかちょっと寂しい感じがします。グリーン中心になっていて。
少し昔のものになりますが、写真がありますので。

(事務局) ありがとうございます。

(国吉委員) もし、使えるものがあれば使っていただいたほうが、皆さんも少し残念だったなって思われな気がします。

特にオープンガーデンのときには力を入れているので、そのときの一番いい、4月、5月のチューリップが咲いたり、花の彩りがあったりするもののほうが、多分、広報誌が手元に来るのが1月、2月の冬の時期で、ちょっと先の春も感じさせられると思いますので、送らせていただきます。

(高田部会長) 奥井委員、何かありますか。

(奥井委員) 私はこの園芸ボランティアみらいさんに取材に行かせていただいて、皆さんと初めて会いましたが、「国吉先生、いらっしやい」みたいな感じで皆さん歓迎されていて、国吉さんがこのボランティアを立ち上げて20年近く引っ張ってこられたというのをすごく感じました。

皆さん、本当にお元気に活動されていて、初期の頃は男性・女性半々だという、私も今、初めて伺いました。男性は、あの日は2人ぐらいだったですよね。女性の方が皆さん、すごく元気で、もうはさみ振り回すぐらいの勢いで元気にサクサク作業をされていました。

皆さん、お歳を召してきて、ちらっとおっしゃっていたのは、活動はもちろん楽しいけれど、場所が坂の上なので通うのが段々大変になってきたというようなことをおっしゃっている方もいましたね。それでも、「タクシーで来たわよ」という方もいらして、大変だけれども、それでも、その1～2時間のために、バス逃したからタクシーでも来たいぐらいに楽しみにして来られている方がたくさんいるんだなと思いました。そこで仲間の方たちと会ったり、土に触れたりということが皆さんの元気の源になっていて、それで、長年、活動を続けていられるんじゃないかというのは、とても実感しました。

それから、スペースの関係で書けなかったですけども、例えば、剪定した枝葉を集めて、たい肥を作っているコンポストがあったりしました。それから、私が面白いなと思ったのは、自分の古着の上着の袖をリメイクして、剪定ばさみ入れなどを作っていたんですね。リメイクして、すごくものを大事にしている、「捨てられないのよ」とか言って、いろいろ工夫して楽しんでやっていらっしやるんだなとすごく思いました。

お花は、私もあの時期でもお花が咲いているんだと思ったぐらいだったので、私も写真を撮らせていただきましたが、何種類も咲いていましたよね。

(国吉委員) そうですね。

(奥井委員) でも、もっといいお花の写真があるんでしたら、それを使っただけでも、もちろんいいと思います。

(高田部会長) ありがとうございます。

この文章は、お二人で全部、お書きいただいているんですか。

(奥井委員) 国吉委員はもうまさにベテランなので、こんなことを書いてもしょうがないから、私が素人っぽく、園芸ボランティアさんのほうを書きました。

(高田部会長) オープンガーデンの部分は国吉さんがお書きになった？

(奥井委員) はい。

(高田部会長) なるほど。イントロの「緑化につながる地域の魅力」の辺りは。

(事務局) イントロの部分は事務局で書かせていただいています。

(高田部会長) あと、構成とですよ。

(事務局) はい。

(高田部会長) 分かりました。
それを踏まえて、ご意見を皆さんでまた言っていただきたいと思います。どうぞ。

(村松委員) この「やってみようガーデニング」の部分は、取材したボランティアみらいさんから聞いた話ではなくて、独立した記事ですか？

(事務局) 取材記事ではなく、事務局で一旦たたきを作らせていただきました。国吉委員から見ると、色々ご指導いただかなければいけないと思います。

(国吉委員) これ、どんなテーマなのかなって、私もそれを伺ってから。

(事務局) 初心者向けに書かせていただきました。
テーマや初心者が何を求めているかなど、その辺りを想定し切れていない部分があるかと思うので、その辺りを検討していただけるとありがたいです。

(村松委員) 私は、一番左の上、「緑化でつながる地域の魅力」というのが全体の題だと思って見てしまいます。それで、文が奥井委員と国吉委員が取材に行き書かれたのかなと思って全部見てしまうところがあるので、この部分も、みらいさんの取材の中で出てきたことなのかなという感じがしてしまいます。下のほうの囲みなどにして、別のコーナーらしく分かるようになっていたほうが良いと思います。

(高田部会長) 高橋さん、何かございますか。

(高橋委員) この園芸ボランティアみらいさんが活動している場所は、新吉田地域ケアプラザの中ということですか。
原稿を見ると、平均年齢が随分上がってきて、次の10年が心配ですね。10年後どうなっているのか、新吉田地域ケアプラザという所で活動をしていますよという情報を入れておくと、記事を見た近所の方が、ここでちょっとボランティアしてみたいなど訪ねるかもしれない。そういうチャンスを少し広げてみた

ほうがいいのかと思います。

(国吉委員) ありがとうございます。

(高橋委員) 園芸ボランティア養成講座というのは、今もやっていますか。

(国吉委員) 一度、終えていましたが、やはり皆さんが高齢になってきて、次がというお話が出てきたので、4年前からまた復活してやっています。

ただ、最初立ち上げたときは、ボランティアという言葉で、多く集まっていた。そのときと今の状況は色々変わってしまっていて、皆さん、ある意味、ちょっと余裕のある団塊の世代の方たちであったということと、その「ボランティア」という言葉自体が日本で気運が高まっていたときなので、非常にたくさん集まりましたが、今、「ボランティア」という名前を出しても、なかなか集まらないという現状があります。今は、養成ではなくて、いわゆる季節の花を楽しむ講座みたいな形でやって、その中からこのグループを紹介して、1人、入るといいかなぐらいですね、いつも。

(高橋委員) それは、ウェブかなにかで公表していることですか。

(国吉委員) 港北区の広報等ではお知らせしています。

(高橋委員) こういう養成講座があると、見た人が自分も受けてみたいということもあると思います。そういう情報が区にもあるようなら、それをうまくひも付けたりして、情報がヒットするような形であればいいなと思いました。

要は、今後も続けていってほしいから、今のままだと心配だなということですね。

(国吉委員) そうなんです。少しずつ抜けてしまっ。

(高田部会長) 私からいいですか。

この誌面を原稿で見せていただいたときと、今、生の現地の話をしてからだと、全然、頭に浮かぶものが違うんですね。なぜかなと思ったときに、まず、コロナ禍でこのような条件でしかできなかったのも、その辺りは仕方ないというのがあります。前回までで皆さんと作り上げてきた内容は、みどりアップ事業の中のどんな活動なのか、そして、それがどう始まって、どういう方たちが集まってきているかということだったと思います。団体が継続20年というのは、とても大きなことです。なかなかできないことを実現させていらっしゃるというのを、反対にメインテーマにしてもいいと、個人的には思うくらいです。この重要な流れを、国吉さんが仕掛けをしてくださって、今に至っていると思うんですね。

私たちのこの「Action」という広報誌は、「知って、さらに活動につながる」を念頭に置いていますので、さっき、高橋さんがおっしゃったみたいに、今、この活動に参加したいとしたら、この現場に行けるのか、それとも、自分たちの周りこんなことが起こせるのかという仕掛けを含めて、読者のイメージが湧くような構成にしたらいいかないかなという、皆さんの意見を伺うと、そんな感じに思うんですね。

今は誌面が少し平たんになってしまっていて、緑化活動は確かに地域の魅力ではありますけれども、それがどこにどうつな

がっていくかという、ストーリーがある誌面にできたらいいと思います。お書きいただいたお二人も多分、今、おっしゃっていたように、テーマが分からないから、どこをどういうふうに書いていいか迷われたって、その辺りじゃないかなと思うんですね。

一見、どういう場所でやっていたらっしゃるのかというのが今一つわからない。読まないで、なかなか新吉田地域ケアプラザというのもし出てこないですし、写真もケアプラザの庭ということが、目で見てスッと入ってくるようなことになっていたらいいのかなと思います。また、QRコードでのお知らせにつなげるなど、色々なところでそこがどこなのか説明が必要だと思います。

(高橋委員) この写真はケアプラザですか。

(国吉委員) そうです。

(高橋委員) 写真の下に「新吉田地区ケアプラザにて」とか書いておくなど写真の解説がないのと、今、高田部会長のお話聞いて思いました。ケアプラザ内の敷地のほとんどの植物について、年間を通して手を入れていることがわかるようにしておくといいかなと思いますね。

(高田部会長) ボランティア養成講座というのはどんなきっかけで始まったんですか。

(国吉委員) 最初は園芸講座をやってほしいという依頼でした。

(高田部会長) それはケアプラザからの皆さんのための講座として？

(国吉委員) はい。たまたま、その前に私が園芸療法のボランティアのグループの人たちをアメリカに行き見ていたので、こういうのが日本でできるといいなというのが最初で、ただの講座ではなくて、ボランティア講座を立ち上げませんか提案したんですね。

ですので、基本的な園芸の部分、土づくりとか肥料とか病害虫のことや、草花の植え方という花壇づくりについての講座、プラス、この施設自体が重度の身体障害者の方たちがいらっしゃるのと、高齢者のケアプラザになっているので、例えば、車いすの押し方だとか、あとは、目が見えない人たちの介助の仕方とか、そういうこともその講座の中に入れて、あと、樹木の剪定講座も植木屋さんに頼んでやっていただいたりというのがずっとやっていた内容になります。

(高田部会長) なるほど。そのお話を伺うと、流れがわかってきますよね。そして、今に至って、ボランティア団体みらいさんと、区役所とのつながりはどうなりますか。

(国吉委員) そうですね。多分、オープンガーデンに第2回から参加するという関係になります。

ですので、私も思ったんですが、「緑花でつながる」というタイトルのところを、「花と緑でつながる地域の魅力アップ」という、ちょっと大きなタイトルにしてはいかがでしょうか。そして、オープンガーデンのこととみらいさんのことが二つ入っているんですけども。オープンガーデンというのがあって、それにも参加しているというのが、一緒になっている感じの文章

で、ちょっと分かりづらいのかな。それで、オープンガーデンとこの写真がちょっとリンクしていなかったりするの。

(高橋委員) この新吉田地域ケアプラザは、オープンガーデンの対象にはなっていないのですか。

(国吉委員) なってはいますけれども、もしかしたら、私が書いた、この「港北区の職員の方に聞きました」というところを、右側にして、ボランティアの話からつなげたほうが分かりやすいのかなというのはありますよね。

(高田部会長) 20年前にはみどりアップの助成もなかったし、港北区のオープンガーデンも開かれていなかったけれども、なんと、パイオニアで20年前から皆さんでボランティアの緑化をしましょうというお声掛けと講座が開かれて、そこからできました。そして、20年間も続きました。そうしている間に区のほうでもオープンガーデンが始まって、それにみらいさんが参加されて、賞なども取られたりして、今に至って頑張っているという流れですかね。

(国吉委員) そのほうが、分かりやすいのかなという気はしますね。

(高田部会長) そうすると、なんか整理ができますよね。

(国吉委員) そうですね。オープンガーデン自体も、イギリスで始まって、全国でもいろいろな試みは行われています。けれども、どこも防犯の問題などがあって、昔は世田谷もやっていたけれど、それも駄目になりました。小布施とかが有名ですけど、バスで一度にたくさんの方がきたりすることもあるようです。あそこはすごく華やかで、気候的にもいい所なので残ってはいるんですけども。

色々な都市で試行錯誤はしているんですね。でも、この身近な横浜市でもやり続けていることが非常に素晴らしいことだと思うので、実は横浜でもやっているんですよ、みたいなことでも載せられるほうがいいのかという気はしますね。

(高田部会長) その辺りの注意点もあるということですよ。

(国吉委員) そうですね。

(高田部会長) でも、そこをクリアしていけば、とてもいい活動になりますよということですよ。

確かに皆さんが独自で色々されているのが、オープンガーデンをやることによって、また大きなコミュニケーションになるという。情報交換もできるし、まちづくりにもつながるということですかね。

(国吉委員) 今、『趣味の園芸』でも取り上げられていますけれども、全国でこういう花壇活動というか、ボランティアとか、地域の中の人たちに積極的に花の手入れをしてもらうことが、ある意味、コミュニティ力でブームになっているんですね。

私も先日、江東区の仕事をさせていただいたんですが、すごいんですよ、江東区のほうが。非常に大きな地域で、所得的にも格差が結構あるような地域、下町もあれば、高層ビルもあればという場所をうまく生かして、色々な花壇のチームをつくっ

ているのを見てきました。横浜でもそういうことができるという、みなとみらい地区もあれば、この港北区のような住宅地もあり、それから、山間部の所もあり、農の所もありという中での園芸ボランティアの可能性のあるみたいなことが入れられるといい気がします。

(高田部会長) そうですね。一口にオープンガーデンと言っても、色々なタイプがあって、それを写真で少し載せておくと、ご自分の周りだったら、このイメージに近いから、それだったらできるというのにつながるかもしれないですよ。

段々と見えてきたような気がします。

それ以外に、何かありますか。

ちょっと思いましたが、さきほど写真を入れ替えるというお話もありました。表紙の3人の絵はとてもいいとは思いますが、この先は大丈夫なのかという思いもあるって話を聞いて、この方たちの、例えば、お子さんとのつながりってどこかにありませんか。この活動をしているときや、オープンガーデンのときにお子さんがみえているとか。頑張っている方たちと、それをまた、若い方が楽しみにみえるとか、そんな情景の写真だと、さらにいいのかなと。

第1号の写真が、やっぱり同じ3人でした。イメージが同じだとどうなのかなと思ったので。表情はとてもいいので、これとお子さんの様子や、ガーデンのときの様子が重なるとか、そんなつながりもあるといいかなと思います。そのグループにお子さんが手伝いにきているとかはないですかね。

(国吉委員) 初期の頃は、実は若い方もいらして。

(高田部会長) みえたけど、今はいらっしゃらない。

(国吉委員) いたんですけどね。若い方は若い方の、この施設のなかで子育てグループとかがいくつかあるので。ただ、今は交流していないですね。

(高田部会長) でも、見学の方っていらっしゃるんじゃないですか、せっかくこんなにきれいなのに。

(国吉委員) なかなか公的にオープンにはしていないので。

(高田部会長) そういうことですね。

(国吉委員) ただ、毎年9月にお祭りがあって、そのときに皆さんが作った苗とか、挿し木したものを配ったりしていて、地域ではここにこういうグループがあるということは多分、ご存知だし、彼らのお子さんたちも、お父さん、お母さんたちがここに行っていることはご存じなので、そのようなつながりはありますね。

皆さん、やっぱり今、働いていらっしゃる方が多いので、活動になかなかつながりにくいと思っていたんですが、江東区に行くとそうでもなかったのが、ちょっと気になっているところです。

(高橋委員) 写真が載っていない枠の部分はどうなりますか。去年のオープンガーデンの部分。

(事務局) 港北区からオープンガーデンの写真をもらおうと思っています。

す。

(高橋委員) そういう意味ですね。

(事務局) 案内所をやっているとのことだったので、そういう写真ですと、にぎわっている様子が伝わるのかなとは思っているんですが。

(高橋委員) あと、気になったのが、新吉田地域ケアプラザさん、ここに名前がこうやって出てしまうと、いつでもみんなが勝手に入ってきて見ていったりするので、大丈夫なのかなと。

(高田部会長) そうですね。それは大丈夫？

(国吉委員) 多分、大丈夫じゃないかと。

(高橋委員) 事前にこういうのを出しますよと伝えておいたほうがいいのかもしいかなですね。

(事務局) そうですね、そこはケアプラザさんと調整を。

(高田部会長) ハートに植えているのは、施設の中にあるんですか。

(国吉委員) 中です。

(高田部会長) じゃあ、一般の方は普段は入れない？

(国吉委員) いえ、入れます。ケアプラザなので。
ただ、送迎などの車が出入りしているので、お散歩しながらご覧になるのは、もちろんいいと思います。車いすの方もいらっしやるので、何か事故が起きなければ。

(高田部会長) ケアプラザ、そうですね、色々な方がみえるわけですよね。

(国吉委員) そうです。

(高橋委員) 色々イベントやっていますもんね、ケアプラザ自身で。

(高田部会長) そうですね。

(高橋委員) だから、人が来て見るのは問題ないという感じでしょうか？

(国吉委員) それは多分、大丈夫かと。

(高田部会長) 1人でも2人でも、それを見ている方がいらっしやる感じの情景があればいいんじゃないんですかね。

(事務局) 誰かが見に来ている写真ということですか。

(高田部会長) そうですね。一緒に活動しているとかじゃなくて、ケアプラザを利用されている方もきっと、お花きれいねとか、色々あると思うんですよ。なので、皆さんも張り切れると思うんですよ。

(国吉委員) そうですね。ちょうど花の植え替えの時期だからグリーンですけど、花があつてきれいな写真も多分あると思います。あと、人数が少なめに見えるので。一応、集まりがあると、20人くらい必ず来るんですよ。例えば、年末に集まるとか、新年会とかだと大体20人くらい集まるので。このときも確か、18人くらいいらしていたはずなので。

(高田部会長) なので、作業している人が載っている写真があればいいんじゃないですか、1人でも2人でも。

(事務局) この作業写真に人がいる写真をということですか。

(高田部会長) ええ。左の写真はいらっしゃらないですよ。

(国吉委員) 一番下の写真、2人いるんですけど、ちょっと緑で重なってしまっていて。

(奥井委員) 実際に取材に行ったとき、もっとワーッと元気があった感じでしたけど、写真を見るとちょっと寂しげな感じがします。

(事務局) 皆さん、コロナの関係で散って作業をなさっていたので、一つのフレームに収まらなかったところがあつて。他も探してみます。

(高田部会長) 多分、同じ方が写っていたりするから、いらっしゃらないというイメージになっちゃうんですよ。

(事務局) 違う方を選んだつもりでしたけど、表紙と同じ方ですかね。

(国吉委員) 女性ばかりなので、もっと男性が写っているといいかもしれません。

(奥井委員) そうですね。出たときに写っていないとちょっと寂しいかもしれませんね。

(国吉委員) 面白いことに男性メンバーは多分、会社員だった方が多くて、皆さん、そのスキルを生かして、スケジュール表とか、助成金の申請とか、それから名簿作りとか、写真を撮ってまとめるとかというのを全部やったださっているんです。

(高田部会長) 担い手ですよ。

(国吉委員) 女性はお茶を入れて、普段のそういうことを。こんなふうに上手にそれぞれのスキルを生かしてやれるという、一生懸命、砂ふるいなどの道具を作る方とか、ほかにも挿し木を一生懸命やっぴらっしゃる方とか、分業状態が非常に良かったというのがあります。自分たちのことだから、多分、奥井さんにそこまではお話しできなかったと思うんですけど。

(高田部会長) 私も活動をしている中で、色々な分野のことができて初めて、会が成り立っていくと実感しています。それこそ緑のほうはできないけど、さっきおっしゃった事務だったら任せてとか、うちでも鎌は研ぐからやるよという方もいらして。毎回、活動の度に事前に鎌を研いでもらうんですよ、かなりの本数で

すけど。

やっぱり事務も大事だし、色々な分野のことを皆さんでちょっとずつやることによって一つの活動ができるって、これ、すごくいいですね。

(奥井委員) そうですね。自分の特技を生かしてね。

(高田部会長) そういうこともお伝えできるといいですね。

「いや、私なんか分からないから」っておっしゃる方が、もしかして自分もそういうことだったらできるから、やってみようかなと腰が上がるかもしれないという。

(国吉委員) 多分、それが長く続いた秘訣だと思います。

その中でそれぞれ自分の役割をみつけて、居場所をみつけてという言葉がいいか分からないですけども、それが続いてきた秘訣だと思うので、これからやりたいという人も、とにかく来てみて、みたいな感じのところもありますよね。

(高田部会長) 非常に良いご意見が出ましたけども。

(事務局) はい。ありがとうございます。

(高田部会長) その辺りを参考にして。

(事務局) そうですね。誌面の構成を考えつつ、写真の入れ替えも検討します。

(高田部会長) 課題、ちょっと満載になってしまいましたけど。

(事務局) 全てを入れるのは難しいかなと、今、お話を聞いていて思いましたが、工夫してみます。

(高田部会長) 表題でちょっと語るみたいな、そうして、流れが進むみたいなことをすると、もしかして細かいことまで書かなくてもちょっと伝わりますよね。

(事務局) ストーリーのつくりを考えてみます。

(国吉委員) この「やってみようガーデニング」が花壇植えなのか、鉢植えなのか、寄せ植えってどちらかというのと、鉢の寄せ植えというイメージがあるので、花壇に植えるならばちょっと表現を変えるとか、内容も少し変えてみたほうが。

(高田部会長) 反対に国吉さんがこういった中でこのことをお伝えしたらいいというのを書いていただいたほうがいいんじゃないかなと思います。

(事務局) もし、可能であれば。テーマをどうしようというのはあるんですけども。

(高田部会長) 専門にずっとなさってきたし、一番詳しくていらっしゃるから、ここに合った内容のお勧めを。

(国吉委員) 何がいいんでしょう。

(奥井委員) 「お勧めの苗」とか、これ、名称もないので、この時期のお勧めをご紹介いただいてもいいですよ。

(高田部会長) 季節という、その時期で違うので、始めるにあたってやりやすいのはこれですか。
誰でも始められる、アクションに結び付けるという意味でも、その辺りをテーマに。

(国吉委員) 分かりました。

(高田部会長) この地域ケアプラザさんのことじゃなくてということですよ。

(国吉委員) そうですね。
寄せ植えの材料や、この前も質問があったんですけども、例えば、地域で花壇をつくるときにお勧めの花苗というのにしましょうか。

(事務局) いいですね。イメージでは、ベランダ、お庭、どんな方でもできそうなボリューム感となると、おそらく大きめのプランターとかがきつと、皆さん、やりやすいのかなとは思っているんですけども。

(高田部会長) その辺りも含めてご提案いただいたらどうですか。

(事務局) はい。

(高田部会長) 色々な方がいらっしゃるから、まずはポイントを詰めていただいて、ちょっと添えに、こういう場合はみたいなのをに入れていただければ。私が自分で知りたいなと思っているんですよ。

(高田部会長) 望月先生、何かご意見いかがでしょうか。

(望月委員) いいんじゃないですか。私、いいと思いますよ。すごくいいと思いますよ。常日頃、みどりアップでやっていることしかやっていなかったんで、やっぱりこういう広がりを持った視点で広報誌を出すというのがすごくいいと思うんですよ。

(高田部会長) ありがとうございます。

(望月委員) 全く、何か付け足すことはありません。

(高田部会長) ありがとうございます。

(望月委員) 皆さん、よくやったださっていて。

(高田部会) 恐れ入ります。

(高橋委員) みどりアップ『A c t i o n』でvol. 1、vol. 2は、表紙にキャッチコピーを入れていましたが。

(事務局) ありますね。
2号だと「笑顔あふれる農とのふれあい」とか、1号だと「次世代へつなぐ市民の森」とか。

(高田部会長) そうですね。今回は何にしたらいいですか。

(高橋委員) 考えたのが、「花がとりもつ人との出会い」。

(高田部会長) いいですね。どうですか。

(国吉委員) 素晴らしい、いいですね。

(高橋委員) オープンガーデンも、このボランティアの人たちも、人と人のつながりには、みんな花が介在している、花が取り持っていますよというメッセージ。

(高田部会長) そうですね。じゃあ、それで皆さん、全員一致では、38号、vol 3についてはここまででよろしいですかね。

(高橋委員) あと、最後のページ、人生記念樹のところは、「人生記念樹」という言葉を入れておいたほうがいいのかなど。このキャッチコピーは目を引くので、これはこれでいいと思います。

(事務局) 人生記念樹をもっと目立たせるというか、パッと見て分かるということですね。

(高橋委員) そうですね。皆さん、「人生記念樹」って意外と知っている人もいるかもしれないし、各区でも人生記念樹はこれですというのを出していますよね、ホームページとかで。

(高田部会長) 表題に入れるとか？

(高橋委員) 表題のキャッチコピーはいいと思います。ただ、「人生記念樹」という言葉自身も今までなじんでいるでしょうし、実際、みどりアップ計画では、「人生記念樹」という言葉で、こういう事業をしていると。

文章のだけでは、ちょっと埋没している感じがしたので。表題にも目立つように入れていただければ。

(国吉委員) QRコードだけだと、どこに申し込んでいいか分からないかななんて、ちょっと。

(高田部会長) もっと詳しくというので説明にQRコードですもんね。

(国吉委員) そうです。

(事務局) 何のQRコードかというのが分かるようにということですね。

(高田部会長) そうですね。QRコードのつかまえ方が分からないという気がするの。実際はどこに？

(事務局) 人生記念樹を紹介するウェブページに飛ぶことになっています。

(高田部会長) ホームページを見られない方はどこに行けばいいかも書いていないと。

(事務局) 「パンフレットは各区役所で配布しています」とか、その辺りも少し。

(高田部会長)　そうですね。
確か何種類か木があって、選べるんですよ。

(事務局)　そうですね。

(高田部会長)　それも最初知らなくて、どんなことなのかしらと思ったんですよ。なんか説明もう少し。

(事務局)　はい、もう少しどこでもらえますとか、どこで案内していますということを入れるようにします。

(高田部会長)　それだったら申し込んでみようかなってなると思うんです。樹種も選べるというふうなことを言えば。

(事務局)　確かにそうですね。

(高田部会長)　最後のページは他に詰めなくて大丈夫でしょうか。
行き方のところはQRを付けなくていいですか。
この場所を説明している詳しい情報はありますか。

(事務局)　上段の公園の記事ですか。

(高田部会長)　はい。「六角橋四丁目」と言われても、私、行こうと思っても行かれないですね。見てみたいとしても。

(事務局)　マップを入れたほうが行きやすいということですよ。

(高田部会長)　そうですね。

(事務局)　下に住所と、近くのバス停は書いていますが、あとはクローズアップしたマップを入れると。

(村松委員)　この写真、両方とも同じ公園ですか。

(事務局)　はい。

(国吉委員)　写真は一つでいいんじゃないですか。

(高田部会長)　写真が2つあって、2か所だと一瞬、思ってしまったので。「続々と」の割には1つしかないんですか、紹介は。

(事務局)　そうですね。年を追って増えて。

(高田部会長)　年を追って1つ？

(事務局)　あとは、この「続々と」を下のところにも掛けたいとは思ってました。この公園以外でも、色々と緑化の取組があるので、この看板を探してみてねというイメージだったんですけど。

(高田部会長)　これは全く同じ場所で、そんなに雰囲気は変わらないから、ちよっともったいない感じがしますね。

(事務局)　写真を削って、マップを入れると、行きやすくなるかなとは。

	<p>(高田部会長) そうですね。ちょっと工夫していただくということでお願いします。</p> <p>(国吉委員) そうすると、このみどりアップの看板写真を上に持ってくると、「続々」感があるかもしれない。</p> <p>(高田部会長) それでは、レイアウトと言葉を工夫していただくというところをお願いします。事務局、よろしいでしょうか。 次の議題、第39号レイアウト案について、事務局説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">(事務局説明)</p> <p>(高田部会長) では、今、ご説明いただいた第39号の内容について、皆さん、この流れでよろしいでしょうか。 ご意見もないようですので、それでは、議事内容については以上となります。</p> <p>(事務局) 本日は貴重なご意見ありがとうございました。本日の編集会議、委員の皆さんに、時の流れというか、どういうストーリーがあつて、今のこの空間があるというところ、そこがとても大事だという、大変ご示唆に富んだご意見をいただきました。皆さんからいただいたご意見を参考にしまして、事務局で作業を進めていきますので、引き続きよろしくお願いいたします。 これにて、第46回の広報見える化部会、終了いたします。 どうもありがとうございます。</p> <p>(一同) ありがとうございました。</p>
<p style="text-align: center;">資 料 ・ 特記事項</p>	<p>資料1 市民推進会議広報誌第38号原稿案 資料2 市民推進会議広報誌第39号レイアウト案</p>